支援事例

商工会名	菊池市 商工会	氏名	渡邊 千登勢	情報開示の可否	可
支援テーマ	販路拡大・販路支援	題名	「ドッグカフェ事業」 & 「ドッグフード販売」への新事業展開		
	持続化補助金				
	その他				
	新事業展開				

<支援企業の概要>

事業所名	(株)アイポリー	従業員	8 人	創業/ 会社設立	創業日	2008年2月26日
業種	飲食業	うち家族従業員	1 人		業歴	17年1ヶ月

○企業概要

- ◇業種 飲食店（お好み焼き・焼きそば）
- ◇沿革 2005年 個人事業として創業 2008年 法人設立
- ◇営業時間（月～金）11:00～17:00（土、日、祝）11:00～21:00
- ◇定休日 水曜日
- ◇座席 全42席 オープンキッチンスタイル
- ◇駐車場 11台
- ◇スタッフ 8名（パート、アルバイトを含む）
- ◇販売方法 ①店内飲食 ②テイクアウト ③冷凍お好み焼きを自動販売機で販売
- ◇その他 券売機を導入している

○支援のきっかけ（相談内容）・支援前の課題

【支援課題・支援計画】

- （相談内容）現在の店舗にテラス席を増設し、ドッグカフェ&ドッグフード事業への新規参入
- （支援課題）新事業参入計画を進めるためには、補助金の活用が必要
- （短期計画）補助金による新規事業への進出
- （中長期計画）新規事業の拡大
- （現状分析）
- ◇強み：創業18年の高い認知度があり、お好み焼きのトッピングをカスタマイズできる等既存顧客を飽きさせない仕掛け
冷凍お好み焼きを自動販売機で24時間販売・券売機導入によるキャッシュレス決済対応
代表取締役のペット仲間のネットワークがあり、代表者のインスタグラムには2.7万人にフォロワーがいる
観光地（阿蘇）へ繋がる幹線道路沿いの立地
- ◇弱み：客単価が低く回転率が悪い・アイドルタイム（15：00～17：00）がある
固定客が多く新規顧客の獲得が難しい
- ◇機会：菊陽町への台湾半導体大手TSMC進出の影響により、今後、住民の増加、交流人口の増加
ペット市場の活況、ペット同伴での食事ニーズの増加
近隣でのペット可マンションの増加
- ◇脅威：原材料の価格高騰による利益率の減少
- ◇売れ筋商品：モダン焼き・お好み焼き・焼きそば
- ◇顧客ニーズの把握：（既存事業）店内で熱々の焼きたてを食べたい
（新規事業）ペットと一緒に食事をしたい
- ◇競合する店舗等：お好み焼き屋は菊陽町に4店舗、ドッグカフェは菊陽町に競合なし

○支援内容および支援後の状況・効果

◇相談の背景

新型コロナウイルス感染症の影響により客足が激減したため、小規模事業者持続化補助金〈コロナ特別対応型〉を活用し、プラスチック（急速冷却機）と真空パック包装機の導入し、冷凍のお好み焼き等を商品開発し販売し、冷凍食品を含めたテイクアウトの売り上げを伸ばし、2021年度は前年度に迫る実績を出すことが出来た。

しかしながら、テイクアウトでの客単価は店内飲食に比べると低く全体的な売上増加にはつながらず、コロナ禍で減少した店内飲食の客足を取り戻し、アフターコロナでも生き残って行くためには、新たな顧客層の取り込みが必要であると考えた。

◇相談の内容

令和3年6月、現在の店舗にテラス席を増設し客席を増やしたいので、補助金を活用したい
テラス席増設の総事業費約670万円

【フェーズ1】 経営相談会及び専門家派遣活用による事業再構築補助金申請

相談の内容を踏まえ、新型コロナウイルス感染症関係経営相談会にて専門家に相談した。当初は、テラス席を増設し客席を増やす取組であったため、熊本県の業態転換補助金の申請を検討したが、テラス席は建物に該当する可能性があり、補助金申請は厳しい感じであった。

引き続き専門家との相談の中で、愛犬家のニーズ（愛犬と一緒に食事がしたい）や競合が少ない点からテラス席をドッグカフェとする方向性が固まった。新分野進出になり事業再構築補助金の申請要件を満たしたので、申請することとなった。

その後、経営相談会（5回）や専門家派遣（4回）による専門家のブラッシュアップを行い、計画内容の充実を図っていった。

令和3年12月、令和4年6月、令和5年1月と計3回事業再構築補助金の申請を行ったが、残念ながらいずれも不採択であった。

【フェーズ2】 令和4年度補正 外食産業事業継続緊急支援対策事業 外食産業事業成長支援補助金申請

事業再構築補助金が3回不採択となり、今後の対応策を検討していた時に県連の椎名特任経営指導員より『外食産業事業成長支援補助金』が該当するのではと情報提供を受けた。要項により申請要件を満たしていることを確認し、事業所に補助金の説明し、補助金申請をすることとなった。

情報提供が令和5年4月下旬で申請期限が令和5年5月末とタイトなスケジュールであったが、事業再構築補助金の事業計画書を基にブラッシュアップしながら事業計画書を作成し申請。

(進捗・成果)

外食産業事業支援補助金は採択を受けることができ、その後は、テラス席の増設工事は順調に進み、令和6年2月に実績報告が完了した。

補助金事務局より、モデル事例に選ばれ取材を受け動画が公開されています。ご興味がある方は是非ご覧ください

URL <https://jmac-foods.com/news/2209/> 【外食補助金 モデル事例15】お好み焼き店が挑むドッグカフェ事業（株式会社アイポリー）

【フェーズ3】 コーヒーメニュー導入のための小規模事業者持続化補助金申請

新規参入したドッグカフェはもちろん、お好み焼きを食べた後にコーヒーを飲みたいとの要望も多いため、コーヒーメニューを導入したい。更に、テイクアウトでもコーヒーを提供する。

そのために厨房を改装しコーヒー関連機器を導入する。併せて、ドッグカフェを周知するための看板を設置する。

上記の計画を実現するために、令和6年3月に小規模事業者持続化補助金を申請した。

(進捗・成果)

小規模事業者持続化補助金は採択を受けることができた。令和6年9月現在、補助事業は完了し、実績報告の準備中である。

○今後について（目標や課題など）

今後は、ドッグカフェの認知度向上を図る必要があるため、SNSを活用したPRを強化していきたい。そのためには、専門家を活用することも検討していく。